

《企業紹介》

同社はベトナムでユニバーサルバンキングサービスを展開する銀行で、大手4行（ベトナム投資開発銀行、ヴィエティンバンク、ベトナムバンク、アグリバンク）の一角を占める。国内銀行の総貸出残高は3位（2025年3月末時点）となっている。同社の強みとしては、国際的な信用調査機関からベトナム国内の銀行の中で最も高い信用評価を得ていることが挙げられよう。

1963年4月にベトナム国立銀行の外国為替部門がスピンオフして設立され、1990年に外国為替専業銀行から商業銀行へ転換、その後事業の多様化を進めて2009年に民営化企業として初めての株式公開している。2011年にみずほ銀行と戦略提携し、みずほ銀行は同社の株式の15%を保有している。

《2026年1—3月期業績》

2026年1—3月期の営業収入（対応費用を差し引いた純額、以下収入は全て純額）は前年同期比22.7%増の21.1兆VND（ベトナムドン）だった。貸出債権残高が同20.5%増の1,727.3兆VNDとなったことに加え、2025年10—12月期に引き続き預貸利ザヤの改善が継続したため、金利収入は同29.0%増の17.6兆VNDと大幅に増加した。預貸利ザヤの改善は調達コストの上昇を上回る貸出金利の引き上げができたためとみられる。手数料収入は採算改善効果によって同17.1%増の9,434億VNDとなった。その他収入は外国為替売買益の減少により同6.7%減の2.5兆VNDとなった。ベトナムの銀行の多くは資金調達コストの上昇を貸出金利へ転嫁できない状況に陥っているが、同社はそれを着実に進めている。その点は高く評価できるだろう。

税前利益は同8.7%増の11.8兆VNDだった。営業費用が営業収入の増加率を下回る同21.8%増の6.8兆VNDとなったものの、貸倒関連費用が同231.4%増の2.4兆VNDに増加したことにより、税前利益の増加ペースは営業収入の増加ペースを大きく下回っている。純利益は同8.7%増の9.4兆VNDだった。貸倒関連費用の増加が利益の増加ペースを押し下げているが、同社の貸出資産の健全性は一段と高まっている点も考慮する必要があるだろう。

図表1 四半期業績の推移（単位 十億VND）

	2025年1-3月期		2025年4-6月期		2025年7-9月期		2025年10-12月期		2026年1-3月期	
		前年同期比 (%)		前年同期比 (%)		前年同期比 (%)		前年同期比 (%)		前年同期比 (%)
営業収入	17,264.7	-0.1	17,868.2	6.7	18,052.2	7.2	19,172.5	8.3	21,179.8	22.7
（うち金利収入）	13,687.2	-2.8	14,160.2	1.8	14,657.2	8.0	16,169.8	16.8	17,651.1	29.0
（うち手数料等収入）	806.0	-44.1	860.9	-42.6	938.3	-26.2	864.6	-6.4	943.4	17.1
（その他収入）	2,771.6	57.4	2,847.1	111.7	2,456.6	23.7	2,138.1	-27.4	2,585.3	-6.7
営業費用	5,652.4	11.8	6,024.7	17.6	6,037.4	3.9	7,437.7	5.6	6,884.1	21.8
貸倒関連費用	752.4	-50.1	809.6	-46.5	775.6	138.2	847.5	-	2,493.1	231.4
税前利益	10,859.9	1.3	11,033.9	9.1	11,239.1	5.0	10,887.3	1.7	11,802.7	8.7
純利益	8,696.2	1.4	8,831.9	8.8	9,020.5	5.3	8,629.5	0.7	9,456.6	8.7
貸出債権残高	1,433,896	16.0	1,522,462	14.1	1,595,934	16.8	1,648,557	16.3	1,727,391	20.5
貸倒比率(年換算、%)	0.2	-	0.2	-	0.2	-	0.2	-	0.6	-

注1 収入は全て対応費用を差し引いた純額

注2 貸倒比率は貸倒引当金/貸出債権残高×4(年換算)で計算(%)

出所 会社資料をもとに当社作成

ニュース証券株式会社【関東財務局長(金商)第138号】

加入協会 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

有効期限作成日より180日

News20260508

主な事業 金融商品取引業

本資料は情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料は信頼できる情報源から作成したものです。その正確性を保証するものではありません。統計数値は過去の実績であり将来の成果を保証するものではありません。外国株式は、価格変動リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、会計基準変更リスク、流動性リスク、取引相手先リスク(カウンターパーティーリスク)、機会損失、その他リスクがあります。ご投資をする際には、上記価格変動及び為替変動により投資元本を下回るおそれがありますので、約款・投資ガイド及び契約締結前交付書面をよくお読みいただき、商品特性やリスク及びお取引ルール等を十分ご理解の上、投資家ご本人様の判断にて行ってください。

《株価の推移》

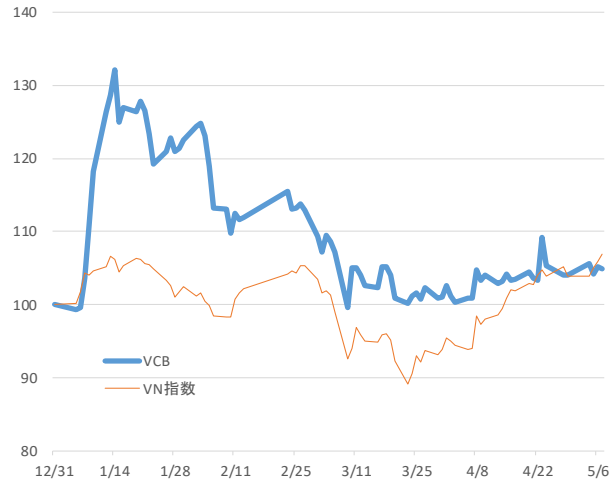
同社の株価とVN指数の2025年終値を100としてそれぞれを指数化したものが図表2である。同社の株価は2026年1月7日から14日にかけて急騰し、VN指数を大きくアウトパフォームする局面がみられたが、その後下落傾向に転じるとパフォーマンス差は縮小している。5月7日終値時点でVN指数が2025年末比7%の上昇となっているのに対し、同社の株価も5%の上昇となっている。5月7日終値60,300VNDで計算した時価総額は503.8兆VNDで、これは2025年12月期実績の純利益35.1兆VNDに対して14倍となっている。

急騰した理由は、ベトナム政府が同社を含む国営4大銀行に対する株主還元の姿勢を転換するとい

う決議を発表したためである。この決議は国営4大銀行の配当政策を、従来の現金優先から、それぞれの資本政策を考慮した自由度の高いものへの変更を許容している。そのため、同社は積み上がる利益準備金を、株式配当等の実施により法定資本金の増強に充てることが可能になる。法定資本金が増強されれば、貸出余力の拡大と国際的な銀行の資本規制への準拠を両立させることができ、貸出増や調達コスト低減によって、利益成長が加速するという思惑が株価に影響したようだ。

株主還元の拡大期待に加え、資金調達コストの貸出金利への転嫁も着実に進んでいる。このことは株価評価の押上要因になることが期待される一方、株式の保有規制などが続くことはマイナス要因となるだろう。2026年9月のFTSEラッセルによる市場格上げが本格的なオペレーションに移行することを考慮すると、業績回復の継続に合わせて、流通時価総額を増やす施策がパフォーマンス改善につながるだろう。

図表2 株価推移



出所 各種データをもとに当社作成

ニュース証券株式会社【関東財務局長(金商)第138号】

加入協会 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
 主な事業 金融商品取引業

有効期限作成日より180日

News20260508

本資料は情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料は信頼できる情報源から作成したものです。その正確性を保証するものではありません。統計数値は過去の実績であり将来の成果を保証するものではありません。外国株式は、価格変動リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、会計基準変更リスク、流動性リスク、取引相手先リスク(カウンターパーティーリスク)、機会損失、その他リスクがあります。ご投資をする際には、上記価格変動及び為替変動により投資元本を下回るおそれがありますので、約款・投資ガイド及び契約締結前交付書面をよくお読みいただき、商品特性やリスク及びお取引ルール等を十分ご理解の上、投資家ご本人様の判断にて行ってください。